

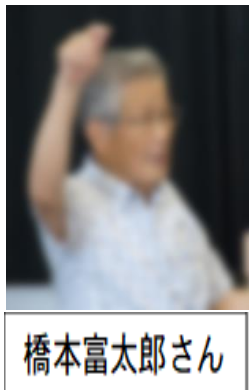

**広川町立
広川中学校**
 [学校だより]
 ~まこと~
誠
 伸びを実感!
 令和5年
 9月1日第5号
 発行者
 校長 中園仁彰

記憶をつなぎ、思いをつなぐ…

8月4日に**平和授業**を実施しました。

今年度は、語り部の橋本富太郎さんを長崎からお招きして、平和学習を行うことができました。戦後78年を経て、残念ながら今もなお世界では戦争の炎が揺らいでいます。

また、当然ですがこの78年は、日本に原爆が投下されてからの経過年でもあります。貴重な経験談を実際に伺うことのできる時間は限られているということですので。橋本さんのお話を聴いている生徒達も、そのことはしっかりと考えていたようです。また、感想文からも、平和への思いや願い、そして決意がひしひしと感じられました。戦争と平和、そして命を見つめる授業を、これからも大切にしていきたいです。



橋本富太郎さん

3年	2年	1年
<p>■「戦争はいけない、平和を守る。」言うだけでなく、次世代へつなぐ行動をしたい。</p> <p>■9年間で一番心に残った。それは歴史を学んだからです。学んだことで、話がスツと頭に入った。理解は進みましたが、戦争を憎む思いは小学校のままです。</p> <p>■「微力だけど無力じゃない。」日本国民として、二度と戦争が起らないよう語り継いでいきたい。</p>	<p>■僕はこう思った。核兵器は持つてもいけないし、持たせてもいけない。</p> <p>■「唱えるだけではダメ、行動すること」にはつとませられませんでした。そのためには、橋本さんが言われたとおり「知力」をつけて実行することが大事だと思います。</p>	<p>■小学校の時より深く学べた。6年生で修学旅行に行ったから、思い出とともに深く振り返ることができた。</p> <p>■「被爆者」というだけでも苦しいのに、就職や結婚の差別もあるなんてひどすぎだと思いました。</p>

救命救急（心肺蘇生）研修を実施しました。

先日、全職員を対象に心肺蘇生を中心とした救命救急研修を実施しました。これは、毎年実施しているもので、たくさんの方の研修の中でも特に重要なものとして位置づけています。激しい運動や感電以外にも、食物アレルギーによって、心臓が危険な状態になることも想定されます。参加した職員も真剣な表情でした。



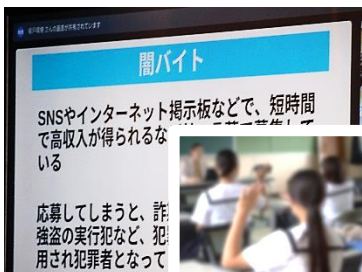
胸骨圧迫の仕方

手のひらの付け根で30回押す。
(1分間で100回のペース)



情報リテラシー教育講習会を行いました。

現代では、SNSを媒体としたトラブルが残念ながら後を絶たないようになってきました。スマホ所持の有無を問わず、生徒達の身の回りにも危険な状況があります。広川中では、このような状況を少しでも改善できるように、毎年「情報リテラシー教育講習会」を実施しています。これをきっかけに、ぜひご家庭でもしっかりとお話しただけならと思います。



昨年に引き続き全国大会で快挙、

さらに「国体に進出することが決定！」

6月の陸上競技大会から始まった中体連夏の大会が、8月の水泳大会で終了しました。各競技では、3年生を中心に日頃の練習の成果を十分に発揮し、広川中学校の運動部の歴史に、その足跡をしっかりと残してくれました。

そのような中、3年生の池田莉央さんが、昨年度に引き続き水泳の全国大会(香川大会)に出場し、100mバタフライで見事5位入賞を果たしました。その前に行われた九州大会(長崎大会)では、100m・200mバタフライの二つの種目で優勝しました。さらに、池田さんは、9月に鹿児島で行われる国民体育大会に、選手として出場することが決定しました。「泳ぐことが大好き」という池田さんのこれからの、大きな声援を送りたいと思います。



「一人で悩まないで！」(保護者の皆様へお願い編)

文部科学大臣による緊急メッセージ
近年、「コロナ禍も相まって、自らの命を脅かす若者が増加していることが社会問題となつています。」
このため、この八月に、文部科学大臣から、子どもたち向け、そして保護者の方々向けに緊急メッセージが出されており、紹介いたします。なお、生徒たちには、相談窓口の紹介資料と共に、生徒向けメッセージ文を書面で渡しています。

保護者のみなさまへ

保護者のみなさまへ 厚生労働省・警察庁の統計によると、令和4年において自らの命を脅かした児童生徒の数は過去最多を数え、大変憂慮すべき状況にあります。長期休業明けは、不安や悩みを抱える児童生徒等が増える時期でもあります。保護者や学校関係者、地域のみなさまにおかれましては、以下のような児童生徒等の態度に現れる微妙なサインに注意を払っていただき、不安や悩みの声に耳を傾けて適切に受け止めていただくとともに、学校、家庭、地域、警察や医療機関などの関係機関等で緊密に連携し、不安や悩みを抱える児童生徒等が孤立することのないよう、地域全体で支援していただきますようお願いいたします。

児童生徒に見られるサインの例

【これまでに関心のあつた事柄に対して興味を失う・成績が急に落ちる・注意が集中できなくなる・身だしなみを気にしなくなる・健康管理や自己管理がおろそかになる・不眠、食欲不振、体重減少などのさまざまな身体の不調を訴える】

令和五年八月

文部科学大臣 永岡桂子

※ 一部、原文から表現を変更しています。